

今までの総会の様子



# 今年度は総会のみ開催いたします

## 新たなスタートをめざして

同窓の皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。日頃は村上高校同窓会関東支部の活動にご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和2年から4年までの3年間、新型コロナウイルス感染症防止のため、総会並びに同窓の集いは開催することができませんでした。その間、会員の皆様にご心配をおかけしましたが、令和5年に入りようやく新型コロナウイルス感染症状況が下火になって落ち着いてきたことから、今年こそは4年ぶりに総会を開催すべく準備を進めております。

しかしながら依然として新型コロナウイルス感染状況が収束に至っていないことから、今回は飲食を伴わない総会のみで開催することに致しました。1年に1度の同窓の集いを楽しみにしていた会員の皆様には申し訳ございませんがご理解を賜りますようお願い申し上げます。

また、今回の総会においては、今まで3年間伸び伸びになっていた、同窓会関東支部の役員及び事務局の人事体制の刷新など、重要事項の報告・決議を行い、新たなスタートをめざしています。多くの会員皆様のご参加を期待しております。

村上高校同窓会関東支部 会長 山本宏平 (17回)



新潟県立村上高等学校同窓会関東支部

# お高

題字 宮 絢子

2023. 5. 10  
第34号

発行人 山本 宏平  
編集 木村 春夫  
事務局 木村 春夫  
牛久市さくら台3-16-16  
☎029-871-0435  
ホームページ<http://www.murakou.com/kantou/index.htm>

今年の会場の新潟県人会館2階ホール



### 総会のお知らせ

◆とき  
令和5年6月18日(日)  
14時30分受付開始  
15時開会

◆ところ  
新潟県人会館2階ホール  
台東区上野1-13-6  
☎03-3832-17619

◆参加費  
・無料(総会のみのため)  
※会場準備の都合上、5月末日(水)までに欠席のご返事をお願いいたします。

### 維持会費について

関東支部の活動再開に伴い、今年度の維持会費を募集します。

皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

### お知らせ

令和4年8月の村上地方を襲った豪雨災害に対し、同窓会関東支部として、村上・関川村に対しそれぞれ5万円の義援金を送りました。

### 同窓の集いと心の豊かさ

高橋光顕(23回)



昭和33年頃、村上高校同窓会関東支部は設立されました。当時は、携帯もインターネットもなく、通信は手紙か公衆電話、交通も新幹線や高速道路が整備されるまで故郷は遠い存在でした。そのような中で、同窓の集いは仲間の存在を身近に、また懐かしさを感じる唯一の場であったと思います。

現代では、通信も交通も発達してふる里は身近になりましたが、逆に望郷の思いは遠く薄らいだように思えます。このような環境変化が、同窓会参加者減少につながっているのではないのでしょうか。

戦後の日本は、世界も驚く早さで復興をなし遂げました。しかし経済や技術の発展とは逆に、「精神文化」が失われたとも言われています。社会にもう少し精神文化が養われていたら、人々の幸福感も違っていたことでしょう。

心の豊かさは、金銭や物質だけで得られるものではありません。社会にどれだけの精神文化が根付くかで決まってくると思えます。この豊かさを感じる要因の一つは、人との関わりです。

同窓の集いは、在学中の交流如何に関わらず、直ぐに意気投合できる場です。たとえ互いが初対面同様であっても、同郷・同窓、また利害関係も薄い、そんな境遇が心の距離感を縮めてくれるのだと思えます。

このような場は人生に潤いを与えてくれます。後輩の皆さんにも、ご自分の心の豊かさを高めるツールの一つに、この同窓の集いも是非加えて頂きたいと願っています。

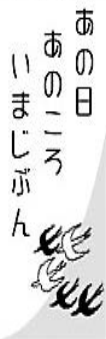
(三郷市在住)

村上高校同窓会関東支部  
令和3年度・4年度会計報告(案)

【令和4年度収入の部】		【令和4年度支出の部】	
項目	金額	項目	金額
総会会員参加費	0円	総会費	0円
来賓御祝金	0円	印刷費	135,434円
特別参加費	0円	通信費	177,380円
本部助成金	0円	維持会費振込手数料	0円
維持会費	0円	会議費	120,139円
寄付金	3,000円	運営費	34,738円
広告代	30,000円	旅費慶弔費	0円
雑収入(利息)	10円	災害義援金	100,000円
前年度繰越金	1,161,135円	次年度繰越金	626,454円
合計	1,194,145円	合計	1,194,145円

【令和3年度収入の部】		【令和3年度支出の部】	
項目	金額	項目	金額
総会会員参加費	0円	総会費	0円
来賓御祝金	0円	印刷費	159,194円
特別参加費	0円	通信費	176,322円
本部助成金	0円	維持会費振込手数料	0円
維持会費	639,174円	会議費	48,360円
寄付金	0円	運営費	1,300円
広告代	0円	旅費慶弔費(祝電)	2,255円
雑収入(利息)	10円	次年度への繰越金	
前年度繰越金	909,382円		1,161,135円
合計	1,548,566円	合計	1,548,566円

故郷



近 亮(31回)

村上を離れてもう45年になりました。「古里は遠くにありて思うもの」とありますが、離れてみて分かる故郷の良さを実感するこの頃です。



様々な観点から語れると思います。まずは食べ物の美味しさです。米はもちろん、鮭を始めとする日本海の新鮮な魚介類、取れたての野菜など、豊かな自然に育まれた食べ物は何物にも替え難いと感じます。自分が生まれ育った環境で育ったものは懐かしさを感じられるのかもしれないね。最近鮭が取れなくなりつつあるとのこと、大変心配です。

次には山紫水明の景観です。今は山も海も見えない場所に住んでいるので、時に無性に山や海を見たくなることがあります。山も海も指呼の距離にある村上の、四季折々の景色の素晴らしさは離れてみて初めて分かると思います。特に寒さから解放される春の良さは格別のものがあります。こぶしの花が咲く山、水が張られて田植えに備える水田、遠くかすむ山々等々、枚挙に暇がありません。夏の夜には、風呂上がりに涼しい夜風に吹かれながら見る天の川の何ときれいなことか。収穫の

秋には稲わらの匂いと共に高い山から徐々に降りてくる紅葉の見事な景観。また、住んでいる時には迷惑でしかなかった雪については様々なことが思い起こされます。小さい頃、寝起きに外を見た時一面の雪景色に変わっていて心躍る思いになったことや、息苦しくなるほどの地吹雪の中、小学校まで歩く途中集落に入っで一息つく思いになったこと、凍った道路で何回も転倒しながら高校まで通ったことなど、総じて雪に対してはマイナスのイメージです。しかしまれに晴れた時、眩しく輝く一面の白い景色、水柱から落ちる水滴、透き通った青空の色、冴え冴えとした夜空に輝く一面の星など風景の美しさは鮮やかに記憶に残っています。

最後に人間関係の濃さです。煩わしいこともありませんが、同郷の人というだけで親しみが湧いたりするように、やはり人と人の関係性が濃い方が暮らしていく中で充実感を感じられるように思います。

(鎌ヶ谷市在住)

昨日、今日そして明日へ

大池和子(30回)

自転車操業の毎日、過去を振り返る余裕はなかなかないのだが、先日新聞で「昨日



の夢は今日の希望であり、明日の現実となる」(近代ロケットの父ゴダード)との言葉を讀んだ。改めて自分の「昨日の夢」を振り返ってみた。村高時代は、今から思えば赤面したくなるようなことばかりであったが、(現実知らずで)世界の国々を見たかった。ラジオの周波数をなんとか合わせて「百万人の英語」を聞き、外国映画や洋楽に夢中になった。NYタイムズ誌に(当時流行っていた)ペンパル募集の手紙を出したところ、新聞社が転送してくれたのか、米国に住む女子高生から手紙が届いたときの嬉しさといったらなかつた。誕生日のプレゼント交換もしたのだが、私は返事を書くのも数日ばかりで、いつしか私の方から消滅させてしまい、申し訳ないことであった。ある時は友人との帰り道、英語だけで話しながら帰ったこともあった。と書いていたら、村高時代のことが次々と思い出されてきた。はるか昔で記憶も定かではないが、皆で笑い駆けながら行事等を懸命にやっていた気がする。

そして時代は流れ、都立高校で英語の教員として勤めている「今日」である。仕事としている以上、今でも大きなながら英語に取り組んでいる日々であるが、そのおかげで様々な出会いがある。生徒たちにはむしろこちらが多くなることを教えられる。同僚を含め仕事で縁がある方々には、このそっかしく不束な私を支えていただき、感謝の念に堪えない。今年度は更に仕事の比重が増加予想であるが、それは希望にもつながっている。私達の職場も



働き方改革が声高に言われるようになってきた。この年齢になったからこそ得られた「気付き」で、今年の私のモットーである「ワークライフバランス」を第一に掲げていくつもりである。

「明日」はまだ予測できない。ただそれを実現させるにも、欠かせないのは同窓生たちの存在である。久しぶりに会ってもすぐに打ち解けあえる同窓生、それはやはり縁あって一緒の校門をくぐり同じ時期を過ごしたということを持つ意味の大ききなのであろうか。村上で、東京で、会うたびにエネルギーを貰い、もうちょっと頑張ってみようかと思わせてくれる。SNSのおかげで、会いたい人達に会い、行きたいところに行くことも容易になってきている気がする。昨夏は英国のロンドン、エジンバラなどを訪ねた際、スマホのおかげで一人で歩き回った。ようやくリアルに集まることも可能になってきた今年こそ、同窓の皆様ともまた縁を機につながら、多くの出会いを期待したい。

最後になるが、担任をした生徒が今春大学を卒業して独立リーグ「新潟アルビレックスBC(ベースボール)」へ投手として入団したと、先日嬉しい報告に来てくれた。新潟との縁に驚いた。練習生としてのスタートであるが、プロ野球選手としての夢の実現に向かって第一歩を踏み出したところである。皆様、どうぞご声援をよろしくお願います！(練馬区在住)



口野球選手としての夢の実現に向かって第一歩を踏み出したところである。皆様、どうぞご声援をよろしくお願います！(練馬区在住)

### 障害を乗り越え生涯学習

板垣保明(24回)



私は視覚障害と人工透析の二つの障害者1級である。あまり自慢できるものではない。世間では自己責任だと決めつける人も多い。「このままで終われない」と人生の終焉が見えてきた2007年4月慶應義塾大学の通信教育部、法学部に入学した。その当時まで視力が若干残っており、今の内にといい気持ちはあった。

私はそれまで広告業界で、マーケティングの企画立案、プレゼンの実施、遂行など4社でキャリアアップを積んできた。4社目の国際広告会社から、縁あってクルマのメーカーに転籍した。業務内容は、広告関連であるが、多忙を極め、始発の出勤、終電というストレスの重なる日々が多く、心身共に疲弊しきっていた。

やがて右目は悲鳴を上げ、眼底出血、お茶の水にある大病院で手術するも、失明となってしまった。その後、杏林大学で左目の手術を受け、失明を無事回避し、手術から13年経過した。今も、光を感じる事ができるのは、杏林のすばらしい先生方のおかげがあったからこそ、と感謝しております。

慶應大学の通信は、小論文の入試を経て、毎年3,000名以上が入学する。しかし、卒業できるのは50名ほどである。脱落の理由の大半は、英語の単位が取れないことからであった。通信で

も一般通学生とほぼ同レベルの英語力が要求される。テキスト科目が3科目に加えて授業で2科目が必修となる。普段から外国人社員と意思疎通はあるが、大学のレベルとはほど遠い。私は対策として、中々の英語問題集を買い、すべて満点が取れるまで何回も反復学習した。そしてテキストは例文の書き換えやイディオムなど単語カードを作成し、通勤電車の中で反復する。その成果もあって、最初の英語1は、試験でほぼ満点が取れた。次いで英語2も、前回の学習法を踏まえクリアした。英語3は時事問題である。英字新聞や小説の長文が出題される。この科目は、

あまり対策せず実力本位とし、ようやく3回目合格した。さて壁となつて立ち足らなかつたのは、授業科目のリーディングである。授業すべてが、英語、CNNの放送を流し、その内容を英語で問われ、自分の考えを英語で述べるという恐ろしい内容である。当初45名の人数は半年の間で、12名になっていった。残った受講生は、帰国子女、翻訳者、羽田空港管制官、航空会社勤務など、英語があたりまえの人達である。最終日、最後に残ったメンパーと教授を囲みパーティーとなり、乗り越えた達成感でいっぱいであった。

最後の関門は卒業論文であるが、かねてより、構想をあたためていた「白団」をテーマとした。これは、戦前の帝国軍人将校達が、蒋介石の窮状を救わんとし、台湾に密航し、中華民国国府軍の将校に教育指導した、という歴史的史実をまとめたものである。取

材や、資料の収集で、台湾に4回、香港に2回訪問し、最終的に約5万字の論文に仕上げることができた。そして無事、卒業にこぎつけたのである。2020年3月慶應本部事務局で、一人だけの学位授与式であったが、感動よりも、これは通過点に過ぎないと自分に言い聞かせたのであった。そして今、台湾海峡をテーマに平和を願う各方面に論文を発信する日々である。(板橋区在住)

### 故郷関川と建築

成岡 茂(19回)



故郷は関川村高瀬温泉です。子供の頃から荒川で泳ぎ、かじか取りをして育ちました。女川村と関谷村の合併で昭和30年に関川村が誕生したことから、女川の川北小学校へ一里の通学をせずに、重要文化財渡邊邸のある下関の関小学校に通いました。村上高校には汽車通学でしたが、卓球部の練習で夜遅く帰宅しました。大学は建築学科。ただ70年安保世代で学生時代は寧ろ社会勉強の方が多かったのではないかと思います。千葉県庁では営繕、建築・住宅・宅地行政に携わりNPO活動でまちづくりや伝統木構造を学びました。

この伝統木造が故郷関川とつながり、伝統木構造の会の全国セミナーは2006年夏に渡邊邸を舞台に行なわれました。村上の町家や伝統木造の模型を展示し、渡邊邸の小羽葺き職人に

は実演もしていただきました。伝統木造は木組みの建築で我が国の職人の知恵が生かされ豊かな森林文化に育まれてきました。昭和30年代までの日本の住宅はほとんどが伝統木造でした。1970年代からの高度成長に伴い、いわゆる新建材が使われるようになり、昭和25年に制定された建築基準法施行令第46条の筋違いで固めた在来工法の住宅とプレハブ住宅が主流になってきました。関東大震災の大火や戦災の教訓か、伊勢湾台風後の日本建築学会の大阪大会では、なんと木造禁止決議までなされています。しかし、2000年の性能規定化を踏まえ、伝統木造も限界耐力計算を行い安全が確認できれば建築確認もなされるようになりました。我が国の伝統木造がそれまでの75年間既存不適格として冷遇されてきたのです。そして未だに建築基準には伝統木造の規定は設けられていない状況です。渡邊邸は先般、大規模改修が行われていますが、一部鉄骨補強がなされています。新潟地震でも耐えた伝統の木組みの建築が異質なもので補強するのが今の文化財行政です。

1981年(昭和56年)に新耐震基準に改正され、耐震補強や免震構造の建築が多く見られるようになりました。しかし、東日本大震災や阪神淡路大震災、熊本地震などでは多くの建物が倒壊し多くの犠牲者が出ました。今般のトルコ・シリア大地震でも多くの犠牲者が出ています。現在、新たな構造理論として「収震」という考え方に基づき建物の補強を行う技術も開発さ

れています。伝統木構造は木組みで柔構造であることから地震には強い。あの関東大震災では火災では多くの死傷者が出ましたが、建物の倒壊では人はほとんど亡くなりませんでした。建築や町並みは人々の生活を潤す大切な要素です。村上では市民の寄付を集め江戸の町並みを復活させる取組みも進んでいます。地域の伝統と文化を生かした故郷の整備が求められています。(流山市在住)

### 大須戸能の源流

田中一成(併中一回)



朝日村大須戸の中山家に伝わる、いわゆる大須戸能は、同家の伝承によると、嘉永年間(1824-1844)に黒川能下座の蛸井甚助が、大須戸に滞在して教授したものとされる。しかし、私が見るところ、大須戸能の演出には、黒川能の要素と目すべきものは見出せない。古式の能の「式三番」をはじめ、筆者が見聞した「紅葉狩り」、「烏帽子折」など、すべて、大和五流の形式である。なぜ、このような「誤伝」が生じたのであろうか。

まず、大須戸に黒川能が伝わった経緯について、桜井昭男『黒川能と興行』(東京同成社、2003年9月)107頁の説明を引く。

新潟県岩船郡朝日村大須戸に伝わった「大須戸能」は、もともと黒川能の能役者が大須戸村の村民たちに伝授したものとして有名で、現在に至るまで、

さまざまな交流が続いている。大須戸能の始まりは、弘化元年(1844)に黒川村小在家の蛸井甚助という太鼓方の役者が、薄荷売りの行商の途中、大須戸村の民家に一泊、風呂に入っていると口に「ずさんだ謡を耳にした大須戸村の旧家、中山家の主人が挨拶に行ったところ、甚助が黒川能の役者であることを知り、能の伝授を依頼したことからであったといい、甚助はこれを縁に20年にわたって大須戸村に滞在し、能の伝授に勤めたという。大須戸村の鎮守、八坂神社に初めて能を奉納したのは、嘉永4年(1851)であったというが(日本の民俗『新潟』)甚助が大須戸村を去るにあたって詠んだ「黒河や上に流れて花の郷」という句を刻んだ石碑が、今も八坂神社の境内に残されている。



大須戸能の翁

これに先立ち、天保5年(1834)、村上では、黒川能を招く話が持ち上がったという。桜井書123頁以下にその顛末を記す。

九月、村上の東山藤太夫という人物が「黒川の」春日神社の神主を訪れ、村上「城下」で7日間の能興行という話を持ち掛けた。紆余曲折を経たが、黒川側は、参加する能役者を50人とし、5日間の興行ということ話がまとまった。しかし、10月に入って、

村上藩が、天保飢饉を無事に乗り切った祝儀として、大庄屋たちを城内に招いて上覧能を行うことにしたため、黒川能は、取りやめとなり、興行計画は実現しなかった。この村上での黒川能興行計画は、翌天保6年にも持ち上がり、庄内藩は好意的に対応したが、最後に手付金のことでの折り合いがつかず、破談となったという。しかし、双方の黒川能に関する熱意は途絶えず、16年後、嘉永4年(1851)に、村上の岩船郡の八右衛門と豪農の家で黒川能の役者32人が祝儀能を舞ったという。桜井書125頁に言及。



黒川能の翁

11月2日に黒川を出発、温海嶽を越えてその日に勝木に一泊、3日の午後6時ごろに八右衛門宅に到着し、翌4日に祝儀能を舞った。演能の後に接待を受け、翌朝帰途に着くころには、「全員酒気満面に漂い、千鳥足、前後忘却」という体であった。

この豪農八右衛門という人が誰かは不明である。大須戸の中山家の可能性が大きい。勝木から大須戸までは、海岸沿いでも、山間の大川沿いでも、1日で歩けたかどうか疑問も残る。一方、嘉永4年は、大須戸の八坂神社に蛸井の伝授した能が奉納された年であり、これらを総合して考えると、この



天保一弘化一嘉永の時期に黒川能の村上への流入の機運が高まっていたことを推定できる。

しかし問題は、現在、中山家に伝わる大須戸能が、全く黒川能に似ていないことである。黒川能は、上座、下座の座敷能の場合、座敷に正方形に板を敷いて舞台とする。両座が共演する春日神社の能でも、拝殿の座敷を仕切って上演され、座敷能の形を貫いている。八坂神社のような橋掛かりの付いた能舞台は持っていない。また、黒川能は、演技の吟唱の中に修験道に由来する呪文を入れるなどの特徴があるが、大須戸能にはこれもない。大須戸能の源流は、黒川ではなく、大和にあると考えざるを得ない。今後の専門家による研究が待たれる。  
(文京区在住)

### 創作童話 鶴の恩返し

鳥屋栄二(23回)

#### 序編

昔々、雪深い小さな村に正直者の与平という男が暮らしておった。あるしはれる冬の夜、与平が寝床に向かおうとすると「トントン、トントン」「トントン、トントン」何やら戸を叩く音がする。



「なんだべ、こんな夜更けに。狸か？狐か？はたまた与作か？」与平が、表戸を少し開け、覗き見ると、そこには何とやら若い女が寒さに震えて立っておった。

「つう、と申します。この吹雪の中、

往生しております。どうか一晩泊めて下さい。」その声は、消え入るように細く、その見目は、透きとおるほど白く美しい。与平は、思いもしない訪問者に動転しながらも、大きく一息吸って、

「と、とりあえず、な、中さ入って、暖まってくんろ。」  
与平は、つうを家の中に招き入れ、囲炉裏端に座らせて、薪を焚いた。赤々と燃える炎——。つうの呼吸は、次第に穏やかになり、顔にも血色が湧いてきた。

「有難うございます。このご恩は一生忘れません。」  
「だいぶ顔色が良くなってきた。疲れたべ。休んだらいい。」

すると、つうが思いがけないことを語り出した。「実は、私は今年の春、関川村の桃川峠で与平さんに命を助けてもらいました。」  
「今年の春ごろっ？」

「はい。お忘れでしょうか？峠で大怪我をしていた鶴。あの鶴が私です。」  
「えっ？？あつ、あの時の——。あの鶴が、つうさん??」

「はい。あのときの鶴です。与平さんに助けていただいて、私は、こうして生きています。どうしてもお礼を申し上げたくて、人の姿になって与平さんを探して参りました。」  
つうは、ひととおり、身の上を語り終えると、「では先に休ませていただきますが一つだけお願いがございます。明日の朝、私が出て来るまでは決して部屋の中は見ないで下さい。お願いです。」

「分かった。分かった。絶対見ないから安心して休んでくろ。」  
つうは、「では、お休みなさい」と挨拶して、隣の部屋へ。与平は、布団に潜り込む。疲れもあり、ほどなく深い眠りに落ち込んだ。

ウトウトと薄目を開けたのは翌朝、東の空に陽の昇るころであった。与平は、昨夜のできごとを思い出した。「よし！」と、布団を抜け出すと、隣の部屋の前に立ち、襖に手をかけたその時、「だめだっ！見るなって言われてたんだ！」

すんでのところ、つうとの約束を思い出す。囲炉裏端で、つうが起き出て来るのを待つ。が、隣の部屋からは、何の気配も、物音もない。  
与平は、思い余ってつうの名を呼ぶと、襖戸を思い切り引き開けた。

すると、そこで見えたものは！  
鶴の恩返し第二話  
な、何だ！ 荒れ放題だ！  
まるで泥棒でも入ったように。  
つうの寝床のその部屋は散乱し、小物入れやタンスなどは、引出しが悉く引抜かれている。

つうの姿が、ない！  
与平は腰を抜かささんばかりに驚いた。あれこれ見回すと、値の張るもの大らかな物の類は、悉く無くなっている。「つうさん、つうさん！」  
「泥棒に連れて行かれたのかも知れない——？」

外にとび出し、声の限りに、つうの名を呼べど叫べど、あたりはしんしんと雪の降るばかり…  
与平は、ただ、ただ呆然とするばかり。へたり込む与平。  
昨夜からの、つうとの一部始終と、目の前の有様を思い、しばらく、両の目を閉じて考え込んだ。

と、与平、かっと目を見開き、はたと膝を打って叫んだ。  
「そうか、つうさんはツル、ではねえ！ペリカンだったんだ！」

夢遊病のように、部屋をさま迷う与平。と、何か、部屋が広く感じる——？  
「あれっ！ タンスがない！」  
そういえば、布団も、衣紋掛も見当たらない。壁の掛け軸も無くなっている。何もかもがなくなっている。

「ガラーンとしてまるで引越した後の空家のようだ。」  
与平は呆然とするばかり。へたり込む与平。  
昨夜からのつうとの一部始終と目の前の有様を思い、しばらく両の目を閉じて考え込んだ。

と、与平、かっと目を見開き、はたと膝を打って叫んだ。  
「そうか、つうさんはツル、ではねえ！ペリカンだったんだ！」

(鶴の恩返し全編 完)  
(さいたま市在住)



# 母校だより

村上高等学校 校長 平山 剛

村上高等学校同窓会

関東支部の皆様には、日頃より、本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力を賜っておりますこと、心より感謝申し上げます。昨年4月に、伝統ある村上高等学校に着任し、校務に当たっております。令和4年度も、様々な教育活動を行い、本校の伝統と誇りを引き継ぐ生徒たちが大いに活躍しました。部活動においては、陸上男子800mでインターハイに出場した生徒や、女子ソフトテニスで北信越とインターハイに出場したペアが



おられました。また、部としては本校には存在しませんが、少林寺拳法において北信越大会に出場した生徒やスキーでインターハイに出場した生徒もおります。

続いて、この春の進路状況についてお知らせいたします。令和4年度の卒業生は130名で、そのうち大学等への進学者は、3月24日現在で、国公立15名、私立大74名、公私立短大8名となっております。また、専門学校等が21名、就職が1名、未定が11名という状況です。近年は、多様な生徒が入学するようになっており、一人ひとりに応じた学習目標を立て、特別な支援を行ったり、悩みを抱える生徒に対しては、寄り添った指導をしたりするこ

とが求められております。

すでにご案内のとおり、本校の令和4年度の入学生は、大きく定員割れするという状況になりました。新潟県では平成20年度入試から通学区域が廃止され全県一区となり、事実上、住居所がどこであるかにかかわらず、県内のどの県立高校でも受験できることとなっております。このことに加え、この地域における少子化の影響により、本校においても生徒募集が難しくなっているのが現状です。ご参考までに、在籍生徒数の推移をご紹介しますと、昭和の終わりから平成にかけては7クラス(840人)規模の生徒数で推移しておりましたが、平成7年度(1995年)の(分校を除く)884人をピークに、その後は減少が続き、平成20年度(2008年)には6学級となり、令和元年度から4学級へと減少しました。また、教員数も、在籍生徒数に応じて減少しています。具体的には、令和4年度の1年生が大きく定員割れしたことに伴い、令和5年度の開始においては、教員数が2名減となります。3月に行われました令和5年度入試は4学級募集ですが、現時点においても定員割れが生じておりますので、このことに対する教員数の削減が、令和5年度末に行われることが予想されます。なお、令和6年度入試における募集学級は、3学級となることがすでに県から公表されており、それに応じた教員数の配置となる見込みです。

定の入学者数を確保することはますます難しくなっていくものと思えます。今後は、教職員の働き方を見直す取組を進め、負担軽減を図るとともに、部活動の見直しや地域移行、学校行事の精選等を行いながら、教育活動を実効性のあるものとしていく必要があります。村上高校の伝統を絶やさず、地域から信頼され、誇りとされる高校であり続けるために、時代に合った新たな村上高校の歴史を築いてまいりたいと考えておりますので、同窓会の皆様方からの、引き続きの御支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 村上市内高校事情

白井潔人(27回)



昭和47(1972)年4月に入学した27回生は、7クラス301人で旧校舎に通った最後の学年であった。1年のクラス編成は入学試験の成績順で並べ、この年、入学早々に制帽が廃止された。

5月には、黒川村胎内平で全国植樹祭に出席された昭和天皇、香淳皇后一行が瀬波温泉に宿泊され、7月には田中角栄内閣で村高の大先輩である稲葉修先生が文部大臣に就任した年であった。

通学は坂町駅から村上駅まで列車を

利用したが、羽越本線は電化される以前で蒸気機関車が走っていた。駅も列車も高校生で溢れていた時代であった。県立高校には学区が設定されていた。専門高校は県内全ての中学校から進学できたが、全日制普通科高校は進学できる高校が決まっていた。筆者が在籍した荒川中学校の場合の進学先は村高と中条高校の2校で、成績順に志望高校を割り振っていた。高校不合格者を出さないようにする「15の春を泣かせるな！」が合い言葉だったのだろう。

平成21(2009)年に普通科高校の学区が廃止され、地元の成績優秀者が他の進学校に流れる契機となった。

同窓会員名簿によれば、20回生は12クラスまであったが、24回生から59回生まで1学年7クラスが維持された。

現在は4クラス編成で、令和4年卒業生は151人であった。ちなみに、昭和42年は県大会で柔道部と剣道部が同時優勝を飾った記念すべき年であり、両部の主力選手は20回生だった。「県北の雄一面目躍如といえる。」

村上女子高校は昭和42(1967)年に開校、平成16(2004)年に閉校した。

新潟県立村上中等教育学校は、平成14年に県内初の公立中高一貫教育学校として村上女子高校の校舎を引き継いで開校、公立としては全国でも2番目に誕生した教育学校である。過去には平成21年、28年、令和2年と東京大学合格者を輩出するなど、立派な成果を残している。(所沢市在住)



### 第10回歴史散策の会

大塚寿子(29回)

令和4年11月19日、3



年ぶりに歴史散策の会を実施致しました。まだまだ新型コロナウイルスの感染に関しては油断ならない状況でしたが、感染予防に留意し、「近くで短時間での実施を」と計画しました。

数年前に田所先輩から候補地としてあげて頂いていた代々木上原の東京ジャーマニイを軸に、周辺を調べて散策コースを作成しました。当日は快晴、代々木の秋を楽しむ散策の会は、小田急線代々木上原駅に10時に集合しスタートしました。参加者は13名でした。

最初に訪ねたのは、代々木上原駅から徒歩5分の所にある古賀政男音楽博物館です。氏の仕事部屋や応接室も再現されています。

次はそこから徒歩5分の東京ジャーマニイへ。小田急線の車窓から見えていた異国情緒溢れる建物が以前から気になっていました。ここはイスラム教の礼拝堂です。見学は常時可能で、ブルーを基調とした天井の高い美しい建物です。礼拝堂の他に食品や物産を扱う店舗やレストランもあります。

代々木上原商店街と地蔵通り商店街

の2つの商店街を抜けると代々木八幡宮に至ります。古い歴史を持つこの神社は敷地内に、古代の竪穴式住居跡が復元されています。

代々木八幡駅を過ぎた辺りから山手通りを横切り、代々木公園へ入ります。山手通りはイチヨウ並木が黄金色となり、代々木公園内の木々も紅葉し、まさに秋真っ盛りでありました。水鳥が訪れる池もあり、秋を満喫しました。

公園を抜けるとJR原宿駅です。建て替えられた癒される新駅舎です。建て替え当初は、旧駅舎も隣接していましたが、すでに撤去されていました。

表参道は人が溢れ、コロナ禍を忘れさせるような大変な混雑でした。目指すは、新潟食品館ネスパス。ここで遅めの昼食を頂きました。おすすめはへぎそば、ソースカツ丼などの新潟名物です。食後、それぞれに新潟の名産品を求め、14時半解散となりました。ネスパスは、令和5年12月に閉館する予定です。

今回の歴史散策の会は、初めての参加の方もあり、楽しい時間を過ごしました。いくつになっても新しい出会いの機会を持つてこのような会を今後も続けていきたいと思っています。

今回の散策予定は九月頃に同窓会ホームページに掲載します。皆さんの参加をお待ちしております。

#### ゴルフ同好会 臥牛会 活動報告

佐藤 勝(14回)



臥牛会では昨年度、コロナ禍でも細心の注意を払いながら活動を続けようという小田会長の方針を基に、4月に春季69回大会と創部35周年となる70回記念大会を開催しました。10月の秋期コンペは70回記念大会として故郷村上に帰ってのコンペとなりました。

この記念大会の前夜、瀬波温泉の大観荘に高橋村上市長も駆けつけてくれ、翌日のゴルフは仕事のこともあり参加出来ませんでした。差し入れの美味しいお酒を頂戴しながら参加者と暫し懇談されていきました。

- ・令和4年春季コンペ(紫カントリ)
    - 優勝 佐藤勝(14回)
    - 準優勝 木村香(19回)
  - ・令和4年10月記念コンペ(日本海カントリ)
    - 優勝 露崎豊和(21回)
    - 準優勝 榎本克服(21回)
- \*臥牛会では随時皆さんの



入会を歓迎し受付しています。事務局まで申し込みください。12月には新宿で忘年会も予定しております。

◆臥牛会事務局 佐藤 勝

(090)3906-1165

#### 「星和会」のご案内

佐藤 勝(14回)

星和会は旧制村上中学卒の大先輩方が立ち上げたもので30年近い歴史があり、同窓会とは別に先輩たちを主体に会員相互の親睦と啓発を図り、母校の発展にも寄与することを目的とした活動をしています。現在では入会を60歳を超えた有志とし、シニアの集まりとなり交流を深めています。主な活動として毎年一回、母校関係者による文化講演会を開催し、併せて懇親の午餐会を開催しています。

なお長くこの会のお世話をされてきた世話人代表の田仲一成さん、佐野清廣さん(ともに1回生)に代わり令和5年からの責任者が佐藤勝に引き継がれました。

#### ◎令和5年度講演会

11月11日(土曜日) 新潟県人会館 講師 齋藤奎一(2回生)

#### ■村高関東支部役員一覧■

令和4年度

役職	氏名	卒業
顧問	佐藤山本	14回
会長	富平	17回
副会長	三富	19回
副会長	濃三	22回
副会長	藤後	22回
副会長	高橋	22回
副会長	大塚	29回
監事	小林	30回
監事	山本	30回
監事	井本	23回
事務局	高木	23回
事務局	村田	23回
事務局	丹木	30回
幹事	村上	1回
幹事	小川	2回
幹事	小野	3回
幹事	乾	6回
幹事	木雄	6回
幹事	荒廣	6回
幹事	野齋	7回
幹事	池野	8回
幹事	根根	8回
幹事	小関	9回
幹事	鈴木	9回
幹事	本野	9回
幹事	小川	10回
幹事	長谷	10回
幹事	本間	10回
幹事	山本	11回
幹事	垣山	12回
幹事	藤垣	13回
幹事	伊井	13回
幹事	菅井	13回
幹事	松尾	15回
幹事	小川	15回
幹事	村川	16回
幹事	佐藤	16回
幹事	本間	16回
幹事	宮本	17回
幹事	所方	17回
幹事	村中	18回
幹事	濱高	18回
幹事	菅井	19回
幹事	山下	19回
幹事	坂山	19回
幹事	秋田	19回
幹事	志遠	20回
幹事	藤村	21回
幹事	中藤	21回
幹事	下藤	21回
幹事	山崎	21回
幹事	鈴木	22回
幹事	佐藤	22回
幹事	本藤	24回
幹事	永井	26回
幹事	石水	26回
幹事	中山	28回
幹事	中本	29回
幹事	相馬	30回
幹事	伊藤	30回
幹事	南藤	31回
幹事	工藤	31回
幹事	坂井	31回
幹事	近藤	31回
幹事	森山	32回
幹事	大本	32回
幹事	山本	33回
幹事	前田	36回





しめはりつる

創業文政2年(1819年)  
宮尾酒造株式会社

町家の雰囲気  
で団子を楽しむ

村上市大町3-2-4  
TEL 025-475-5563  
9時~17時 毎週水曜日定休

十輪寺茶屋  
吉船園



JYURINJI CHAYA  
IWFUNEYA  
since 1987 Niigata Marukami




地酒・特産品 **やまき**

地元の銘酒「**張鶴**」「**大洋盛**」など  
いつでも発送を承ります

〒959-3241 新潟県岩船郡関川村大島1071  
(株)サトウ フリーダイヤル0120-803-887  
TEL:0254-64-1328 FAX:0254-64-0324  
https://www.niigata-sake.jp Email:info@niigata-sake.jp  
代表取締役 佐藤勝利(14回生)

県北の道の駅「朝日」  
全国地方発送 承ります！

新潟・村上市みやげ、地酒、鮭、笹団子等、日本全国へお届けしております




朝日 0254-72-1551  
みどりの里 0254-72-1273  
Asahi Mitsunori no Sato Mail: info@asahimitsunori.com

ふるさとだより

**魅力一杯 元気溢れる 村上**

村上市 市長 高橋 邦芳 (30回)



若葉が美しい季節となりました。会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この冬、皆様のふるさと村上市は例年のない豪雪に見舞われました。12月22日から降り続いた大雪のため市内各地で倒木による電線の断線が多発し停電となったほか、倒木が道を塞いだことから通行止めとなり、一時14集落が孤立する状況となり、12月23日には災害救助法が適用されました。

また昨年は8月3日からの大雨による豪雨災害により、私たちの日常生活は一変しました。線状降水帯による激しい雨が降り続き、神林地域小岩内地区では、大規模な土石流が発生し、甚大な被害となったほか、JR坂町駅周辺の市街地では、広範囲で床上・床下浸水が発生し、一時孤立する状況もありました。未曾有の災害にも関わらず、一人の人命を失うことなく速やかに避難を確保することができたのは、区長や消防団、防災士の迅速かつ的確なご対応と市民の皆さまが日頃から高い防災意識を持ち、行動した結果であります。

被災直後より全国からかけつけてくださった多くのボランティアの方々や関係機関の皆さまには、昼夜を問わず労を尽くしていただきました。先般、3月18日に「村上市災害復興・防災シンポジウム」を開催し、豪雨災害の功労者へ感謝の気持ちをお伝えし、感謝状をお渡しさせていただきました。シンポジウムでは被災地域の区長や防災士に災害当日を振り返っていただき、新潟大学危機管理センターの田村教授からアドバイスをいただきました。引き続き、災害に強いまちづくりを進めるとともに被災された方々の日常生活が一日も早く戻りますよう、復旧・復興に全力を尽くしてまいります。

さて、昨年を振り返りますと6月には、皇后陛下のお父様であり本市ゆかりの小和田恒氏の特別講演会と、神林中学校の校歌を作詞・作曲していただいた平井李枝氏のピアノ・ソプラノコンサートを開催いたしました。

国連大使や国際司法裁判所所長の経歴を持つ小和田先生より、在任当時のお話やご自身のルーツについてご講演いただきました。また、平井先生のお祖父様は、「とんぼのめがね」の作曲家として知られる平井康三郎氏であり、かつて猿沢小学校や平林小学校の校歌を作曲していただいたご縁があります。お父様の平井丈二郎氏が皇后陛下へ小学生の頃からピアノを教えられていたことから小和田家とも親交があり今回のイベントが実現いたしました。お父様をはじめ弟様の平井裕也氏にもご出演いただき、ピアノや歌を交え、和やかなひと時を過ごすことができました。


7月には、これまでコロナ禍のため開催が見送られてきました市内の屋台行事が3年ぶりに開催されました。村上大祭の屋台巡行をはじめ、9月には瀬波大祭、10月には岩船大祭が行われ、地域の伝統ある祭行事を開催することができ、活気と賑いが戻ってきました。

そのような中、本市の魅力を広く情報発信していただくことを目的として現在4人のスペシャルアンバサダーにご活躍頂いております。NGT48の本間日陽さんをはじめ、東京2020パラリンピック男子マラソン銅メダリストの永田務選手、元アルビレックス新潟所属、現在はベルギーで活躍中の本間至恩選手、演歌歌手の越川ゆう子さんが加わり本市の魅力を広くアピールしていただいております。

本市が誇る岩船産コシヒカリは、毎年ふるさと納税の返礼品としても好評でリピーターも多く人気があります。ほかにも村上牛や越後本ズワイをはじめ塩引鮭や張鶴、大洋盛も多くの方から好評を頂いております。国の伝統的工芸品の指定を受けた村上木彫堆朱や越後しな布も自慢の逸品です。ぜひ、ふるさと納税を通じてふるさとの魅力を感じていただくとともに、大切な方への贈り物としてもお選びいただければ幸いです。

皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げますとともに、皆様のお越しを心からお待ちいたしております。

関西村上フェア



特別記念講演会  
世界を知る・日本を知る

今年も信州高山から美味しい葡萄・りんごを産直価格でお届けします

ぶどう：「シャインマスカット」3kg1箱 (税込)5,300円 (別途送料)900円

りんご：「サンふじ」  
5kg1箱(税込送料込)4,400円  
10kg1箱(税込送料込)6,600円

その他の品種・価格はスマホで【信州高山宮川農園】で検索してください。  
(価格は本年7月改定)

ご注文はFAXでお願いします  
長野県上高井郡高山村中山1949-5  
宮川農園 宮川正康(全15回生)  
Fax・Tel 026-246-9666  
携帯 090-1554-2707



村上に帰省の際は和水蔵へぜひお立ち寄りください

清酒 **大洋盛**

〒958-0857 村上市飯野1丁目4-31  
TEL 0254-53-3145 https://www.taiyo-sake.co.jp/